



佐藤誠七 町長

平成23年度 施政方針 (要旨抜粋)

平成23年度は、町民と町が共に創りあげる「共創のまちづくり」の基本理念の下、まちの将来像である『笑顔かがやき 心かよう 美しいまち』をめざす、第5次白鷹町総合計画が実質的なスタートを切る年と位置づけており、さらには、本計画と連動する町過疎地域自立促進計画の着実な展開を進める基盤づくりの年でもあると認識いたしております。

改めて、初心に立ち返り、町民の皆さまの安心・安全なくらしを第一として、生活と福祉の向上、さらには、次世代につながるまちづくりとしての諸施策の実現に向け、精一杯努力いたす所存であります。

平成23年度につきましては、引き続き行財政改革を推進し、持続可能で健全な財政運営の確保に努めながら、諸課題に対して積極的に対応する行財政運営を行ってまいります。

「笑顔かがやき心かよう美しいまち」を目指して

第5次総合計

総額



大震災により防災服での議会審議

総括質疑

●地域文化財の保護・伝承活動について

佐藤京一 議員

佐藤 町史編さん事業により史料の発掘、整理を行うが、町の史料館についてどのように考えているのか。

町長 史料保管センターは公民館に、元鷹山小は解体になった。史料館の必要性は十分認識しているが、いっどこでどうやるかは町財政等々を含め検討していく。

●新たな公共サービス体制とは

守谷丹吾 議員

守谷 第4次行財政改革大綱の基本方針で、新たな公共サービス体制の構築とうたっているが、具体的にどう考えているのか。

町長 公共領域の広がり共創のまちづくりで取り組んでいるもの、コミュニティセンターも含め、NPOの設立などを奨励し、地域再生の大きな制度として連携をとっていききたい。

●新荒砥橋の早期実現は

佐竹典明 議員

佐竹 荒砥橋架け替えの見通しはどうか。早期実現を願う町民の盛り上がり大きな力になるのではないかと。

町長 新年度に河川管理者との正式協議と都市計画作成の予定。町民運動はタイミングがあるため常に連携を保ち取り組んでいく。

●過疎債の動向について

五十嵐政司 議員

五十嵐 全国的な少子化の中で、27年度以降の過疎をどのように認識し予算編成をしたのか。

町長 まだまだ取り組むべきハード部分があり、財政計画と27年の最終年を見て、将来に負担を残さない形で社会資本整備に取り組む。

五十嵐 小、中学校再編は町の今後重要な意味をもつ。過疎法が切れば財政負担が増える、再編計画見直しの必要性をどのように考えているのか。

町長 教育委員会から見直し案をいただいた。大きな課題であり町民の意見を頂戴し最終的な決断をしたい。